若狭高等学校　国語科(国語総合)学習指導案

平成 18 年 10 月 3 日(火曜日)　2 限(9:20 ～ 10:10)・・・1 年 2 組
3 限(10:20 ～ 11:10)・・・1 年 6 組
4 限(11:20 ～ 12:10)・・・1 年 1 組

授業者　教諭　渡邉久暢

（1）単元名　**自分の考えを提案し、発表しよう**　(科目：国語総合)

（2）単元の目標
筋道を立てて意見を述べようとする。・・・関心・意欲・態度
筋道を立てて意見を述べる。・・・話す・聞く能力 ◎
筋道を立てて意見を述べるための様々な工夫を理解する。・・・知識・理解

（3）単元の評価規準

関心･意欲･態度	話す・聞く能力	知識・理解
筋道を立てて意見を述べようとする態度を身につけている。	筋道を立てて意見を述べるために、 ①主張を支える根拠を示している。 ②発表内容の構成や話し方を工夫している。	筋道を立てて意見を述べるための様々な工夫を理解している。

（4）本単元設定の理由

A　学校の実態
本校は「社会に貢献するリーダーの育成」を目指してコミュニケーション能力、自治能力の育成に向けて取り組んでいる。「社会に貢献するリーダー」を育成するという、教育目標実現のためにも、「筋道を立てて意見を述べる」ことを重点的に指導することが必要であると考える。
クラス編成は理数科 1 クラス、商業科 1 クラス　情報処理科 1 クラス普通科 6 クラス、の全 9 クラスである。今春卒業した生徒の進路先は、就職が 30 人、短大専門学校 100 人私立 4 大 100 人　国公立大学 100 人と、進学希望者が大半を占めている。
今回授業を行う 1 年 1 組（理数科）は、難関大学・学部進学を目指している生徒が多く集まっている。1 年 2 組(商業科)は、就職希望者と進学希望者が半々である。1 年 6 組は国公立大学を志望する生徒が多く集まるクラスである。

B　生徒の実態

「話す・聞く能力」に関してはどのクラスも、自分の意見を自由に述べることは得意である。しかしながら、主張が途中でずれたり、主張を支える根拠が一つの観点からしか導かれないなど、「筋道を立てて意見を述べる」能力は十分だとは言えない。

C　育成を目指す言語能力

本単元は、学校の実態・生徒の実態から「筋道を立てて意見を述べる」という言語能力を育成することが必要だと考え、計画した。言葉で伝え合うためには「筋道を立てて意見を述べる」能力が必要とされる。この能力は社会人として必要な能力の 1 つであり、これからの変化の激しい社会にあって「**人間力**」に直結した能力と言えよう。さらに、就職試験における面接重視、大学入試における、AO 入試・推薦入試の拡充傾向などもふまえ、「筋道立てて意見を述べる」能力の育成が急務だと考え、本単元を設定した。

D　学習指導要領との関連

高等学校国語科学習指導要領「国語総合」における内容の A「話すこと・聞くこと」の、ア「様々な意見に対して自分の考えを持ち、筋道を立てて意見を述べること」を学習の中心として取り上げる。

E　評価の規準

筋道を立てて意見を述べることができているかどうかを評価するために、
①主張を支える根拠を示している。
②発表内容の構成や話し方を工夫している。
という２つの規準を主に用いる。

F　評価の方法

学びの過程全体を、①行動の観察　と　②ノート記述の分析によって評価する。
さらに、意見発表の成果を以下に示す評価基準表にもとづいて評価する。

		5	4	3	2	1
ア	主張と根拠	主張を支えるための根拠が、**具体的な体験や様々な情報に基づいて、**多様な観点から示される。	主張を支えるための根拠が、**多様な観点から**示される。	主張を支える根拠が示される。	根拠は示されるが、示された根拠が主張を支えていない。	主張を支える根拠が全く示されない。
イ	構成と話し方	発表内容の構成や話し方を、工夫したことによる、**大きな成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫したことによる**成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫している。	発表内容の構成や話し方を工夫しようとしたことはわかる。	発表内容の構成や話し方を工夫したことがわからない。
ウ	チームワーク	チーム全体による入念な準備をのもと、熱心に取り組んだことを示す**大きな成果**がある。	チーム全体による入念な準備のもと、熱心に取り組んだことを示す**成果**がある。	チーム全体による準備のもと、取り組んでいる。	チーム全体で取り組もうとしたことはわかる。	チーム全体で取り組もうとしたことがわからない。
エ	補助資料	視覚的な補助資料を**効果的**に主張と関連させて用いながら発表する。	視覚的な補助資料を、**主張と関連**させて用いながら発表する。	視覚的な補助資料を用いながら発表する。	視覚的な補助資料を準備はしているが、それをほとんど用いない。	視覚的な補助資料は、特に準備していない
オ	質問への返答	聞き手の質問の意図に沿った返答を、**具体的かつ適切に**行う。	聞き手の**質問の意図に沿った**返答を適切に行う。	聞き手からの質問に返答する。	聞き手からの質問には、「はい、いいえ」「わかりません」などの基本的な返答しか返ってこない。	聞き手からの質問に対して、全く返答しない。

この評価基準表を、折にふれて参照しながら学習を進めることによって、教師も学習者も学習者の進歩を示すものは何かについての共通の理解が形成される。

G　学習活動

高等学校国語科学習指導要領「国語総合」に示された言語活動例の（**イ**）**「情報を収集し活用して，報告や発表などを行うこと。」**を参考に、「発表会を行う」という学習課題を設定する。発表のための情報収集にあたっては、本校図書学習センターを活用する。**発表会に向けて班員が協力しながら活動する**ことによって、「筋道を立てて意見を述べる」という言語能力を育成する。

H　学習課題

1 年 2 組（商業科）　コンビニ出店計画の提案（全 17 時間）
1 年 6 組（普通科）　コンビニ商品配置計画の提案（全 5 時間）
1 年 1 組（理数科）　理数科 CM 企画の提案（全 12 時間）

各学科ごとに学習課題を設定する。今回の課題設定の特徴は、実社会において生活していく中で出会うような**「リアル」な課題**を設定したことである。

1 年 2 組は、若狭高校前にコンビニを出店させるとしたら、どのような商品を重点商品として取り扱うかを提案し、発表する課題である。商業科目として学んでいる「ビジネス基礎」で学んだマーケティング的知識や考え方を活かすことができるよう設定した。この学習課題によって、「筋道を立てて意見を述べる」力を育成する。学習者がこの課題に親密さを感じ、学習意欲が増すことを期待する。

1 年 6 組は、コンビニ店内の商品配置をどのようにすれば、売り上げが上がるかを提案し、発表する課題である。1 年 2 組において、練習材料として扱った小課題を、1 つの学習課題として 5 時間に再構成したものである。「コンビニ」は商業科の生徒だけではなく、普通科の生徒においても身近な存在である。これを学習課題とすることによって、「筋道を立てて意見を述べる」力を育成する。

1 年 1 組は、若狭高校理数科を多くの生徒が受験したくなるような CM 企画を、校長に提案・発表する。という課題である。「中学生対象の学校説明会の際に放映するビデオ CM を作成してほしい」という依頼を学校長から受けた、という文脈を設定した。「メディアリテラシーの育成」という側面も持つこの課題によって、「筋道を立てて意見を述べる」力を育成する。

どの課題も、実社会において生活していく中で遭遇する**「リアル」な課題**として設定している。これは、**「リアル」な課題**に取り組ませることによってこそ、実社会において本当に役に立つ、**「人間力」**としての「筋道を立てて意見を述べる」という能力が培われると考えるからである。

さらに、このような学習課題を用い、**「リアル」な場面**での言語能力を評価することによって、「筋道を立てて意見を述べる」力が、本当に培われたかどうかを確認できる。

I　年間指導計画との関連

話す聞く	書く	読む
4月 自己紹介スピーチ （目的や場に応じて話し、聞く）	4月 真実の鏡 （論理的な構成を工夫して書く）	6月 羅生門
9月中旬　企画の提案 （筋道を立てて意見を述べる）	9月上旬　ヘンデルと力士 （論理的な構成を工夫して書く）	11月 言葉についての新しい認識
1月 ディベート （相手の立場や考えを尊重して　話し合う）	2月「母性」と「父性」の間をゆれる （論理的な構成を工夫して書く）	

本単元は年間指導計画において 9 月中旬に位置づけられている。学習者は、A 領域（話すこと・聞くこと）に関して 4 月に「自己紹介スピーチ」を行い「目的や場に応じて話し、聞く能力」を培った。さらに、B 領域（書くこと）における「真実の鏡」（4 月）「ヘンデルと力士」（9 月）を通して、「論理的な構成を工夫して書く」能力を培ってきた。加えて、C 領域（読むこと）における、「羅生門」の学習過程においては、クラスメート相互が意見を口頭にて交流している。

これらの学習をふまえて、本単元においては「筋道を立てて意見を述べる」という言語能力を育成する。特に「ヘンデルと力士」で培った「論路的な構成を工夫する能力」を、発表原稿を作る際に活かすよう指導する。これによって、主張を支える根拠を明確に示し、発表の構成や話し方を工夫することができると考える。

本単元の後、1 月には「相手の立場や意見を尊重して話し合う」という言語能力の育成を図るために「ディベート」の学習を行う。このように、**複数の単元を構造化し、段階を踏んで国語学力を高める**。「話す・聞く」領域内での関連性を高めるだけではなく、**「書く」「読む」領域の学習単元も有機的に関連させる**ことができるよう、年間指導計画を立てている。

J　学校行事との関連

本単元と関連する学校行事は 9 月に行われる学校祭（プレゼンテーション）と 2 月に行われるディベート大会である。学校祭は各クラスがテーマを決め（たとえば、中国の健康法）それに基づいてクラスを飾り付けた後、来訪者に対して調査した内容をプレゼンテーションする。9 月にプレゼンテーションを経験したことを活かして今回の学習を進めていく。また 2 月に行われるディベート大会において学習者は、今回培う「筋道を立てて意見を述べる」という言語能力を実践的に活かして、ディベートを行う。

学校行事と国語科の学習をつなぐことによって、「筋道を立てて意見を述べる」という言語能力がより一層充実すると、期待する。

（6）指導と評価の計画

1 年 2 組　2 限(9:20 ～ 10:10)　　コンビニ出店計画の提案(全 17 時間)

学習目標・・・筋道を立てて意見を述べる

学習課題・・・ **若狭高校前にコンビニを出店させるとしたら、どのような商品を重点商品として取り扱うかを提案する。**

学習者は、以下の設定の下、学習課題に取り組む

あなたは、**経営コンサルタント**です。　**若狭高校の目の前にコンビニを**出店したいという店主から**コンサルティング**を依頼されました。

高校生をターゲットにした商品計画を行う上で、**若狭高校前店でもっとも売り上げが上がると予測される「商品カテゴリー**（雑誌・パン・お菓子・お弁当　化粧品・・・など」を、**上位三位まで推測し、提案**することがあなたの目的です。

あなたは、**1　なぜその商品カテゴリーを選んだのか**

2　なぜその順位になったのか

について、店主に納得いく提案を行わなければなりません。

提案は**教室**において、他の提案者のいる中で、**店主に口頭で**行います。**図や表**を提示することは可能です。店主に**4分**で説明した後に、**2分**の質疑応答時間を設けます

商品カテゴリー一覧

商品カテゴリー		商品アイテム
加工食品	ソフトドリンク	ペットボトル飲料水（2000ml・1000ml・500ml・250ml）・缶飲料水など
	レトルト商品	レトルトカレー・レトルト雑炊・レトルトご飯など
	カップラーメン	カップ麺・カップお茶漬など
	カップスープ	カップスープ・カップ味噌汁など
	お菓子	スナック・おせんべい・おつまみ・チョコレート・ガムなど
	フローズン食品	アイスクリーム・氷など
	健康食品	ビタミン食品など
ファーストフード	米飯	幕の内弁当・単品弁当・おにぎりなど
	麺類	スパゲティ・冷麺・ざるそば・焼きそば・お好み焼きなど
	調理パン	サンドイッチ・ハンバーガーなど
	カウンター食品	おでん・コロッケ・からあげ・肉まんなど
	サラダ	サラダなど
	惣菜	漬物・ギョーザ・マーボ豆腐・卵焼き・ハンバーグ・ハム・ソーセージなど
日配食品	牛乳	牛乳1000ml・500ml・200ml
	乳飲料	甘味ジュース・お茶・野菜ジュース・コーヒー紅茶・ドリンク剤など
	デザート	ケーキ・シュークリーム・プリン・ヨーグルトなど
	パン・ペストリー	菓子パン・惣菜パン・食パンなど
非食品	雑誌	男性雑誌・女性雑誌・マンガ・成人雑誌など
	化粧品	女性用化粧品・男性用化粧品など
	日用品	靴下・下着・傘・文房具・その他など
	ゲームソフト	ゲームソフト・CDなど
サービス	サービス	宅配便・郵便・コピー・ファックス・ATMなど

		5	4	3	2	1
ア	主張と根拠	主張を支えるための根拠が、**具体的な体験や様々な情報に基づいて、**多様な観点から示される。	主張を支えるための根拠が、**多様な観点から**示される。	主張を支える根拠が示される。	根拠は示されるが、示された根拠が主張を支えていない。	主張を支える根拠が全く示されない。
イ	構成と話し方	発表内容の構成や話し方を、工夫したことによる、**大きな成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫したことによる**成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫している。	発表内容の構成や話し方を工夫ようとしたことはわかる。	発表内容の構成や話し方を工夫したことがわからない。
ウ	チームワーク	チーム全体による入念な準備をのもと、熱心に取り組んだことを示す**大きな成果**がある。	チーム全体による入念な準備のもと、熱心に取り組んだことを示す**成果**がある。	チーム全体による準備のもと、取り組んでいる。	チーム全体で取り組もうとしたことはわかる。	チーム全体で取り組もうとしたことがわからない。
エ	補助資料	視覚的な補助資料を**効果的**に主張と関連させて用いながら発表する。	視覚的な補助資料を、**主張と関連**させて用いながら発表する。	視覚的な補助資料を用いながら発表する。	視覚的な補助資料を準備はしているが、それをほとんど用いない。	視覚的な補助資料は、特に準備していない
オ	質問への返答	聞き手の質問の意図に沿った返答を、**具体的かつ適切に**行う。	聞き手の**質問の意図に沿った**返答を適切に行う。	聞き手からの質問に返答する。	聞き手からの質問には、「はい、いいえ」「わかりません」などの基本的な返答しか返ってこない。	聞き手からの質問に対して、全く返答しない。

＊**店主**は、それぞれの発表に対して「**説得力のある提案かどうか**」という観点から **50 点満点**で得点をつけます。

＊**渡辺**は、**上記の表に基づいて 25 点満点**にて評価を行います。

さらに、毎時間行っている**ノートに対するふりかえりの記述を 25 点満点**で評価します。　これらを**すべて合わせて 100 点満点とし、単元全体の評価**とします。

＊本単元における指導と評価の計画

1年2組(商業科)　コンビニ出店計画の提案(全17時間)					
実施日程		各時間の目標	「話す・聞く」能力の評価規準	評価方法	学習活動
1	9月20日(水) 3限	主張を支える根拠を、 競合店、購買者層、購買時間帯などの 多様な観点から考え、示す。	主張を支える根拠を 多様な観点から考え、示している。	行動の観察 ノートの分析	若狭高校前にコンビニを出店させるとしたら、 どのように商品を配置するかを考える
2	9月21日(木) 1限				「商品配置計画」を発表し、 お互いの主張と根拠を検討する。
3	9月21日(木) 4限				
4	9月22日(金) 3限	発表内容の構成や 話し方を工夫する。	発表内容の構成や 話し方を工夫している。		「商品配置計画」を発表し、お互いに 発表内容の構成や話し方を工夫し合う。
5	9月25日(月) 3限	主張を支える根拠を、 競合店、購買者層、 購買時間帯などの 多様な観点から考え、示す。	主張を支える根拠を 多様な観点から考え、示している。		若狭高校前にコンビニを出店させるとしたら、 どのような商品を重点商品として取り扱うかを考える
6	9月26日(火) 7限				「売れ筋商品BEST３」を発表し、 お互いの主張と根拠を検討する。
7	9月28日(木) 1限				
8	9月29日(金) 3限	発表内容の構成を工夫して、発表メモを作成する	発表内容の構成や 話し方を工夫している。		「売れ筋商品BEST３」を発表するための、 発表メモを、構成を工夫して作成する。
9	10月2日(月) 3限	話し方や構成を工夫して、 発表する			「売れ筋商品BEST３」を発表し、お互いに 発表内容の構成や話し方を工夫する。
10	10月3日(火) 2限	他者の発表を聞いて、 構成や話し方を工夫する			他者の発表を評価し、自分の発表の 構成や話し方を工夫する。(本時)
11	10月4日(水) 4限	主張を伝えるのに効果的な 補助資料を作成する。			自分たちの主張を伝えるのに効果的な 図や絵・グラフなどの補助資料を作成する。
12	10月5日(木) 1限	質問を予想し、それに対する返答を考える。			店主から出される質問を予想し、 それに対する返答を考える。
13	10月6日(金) 3限	話し方や構成を工夫して、 発表する			発表最終準備と、リハーサルを行う。
14	10月10日(火) 2限	話し方や構成を工夫して、 発表する	主張を支える 根拠を示している。 発表内容の構成や 話し方を工夫している。	評価基準表による評価 ノートの分析	店主に対して 発表する
15	10月11日(水) 4限				
16	10月12日(木) 1限	筋道を立てて意見を述べるには どうすればよいかについて考察する	筋道を立てて意見を述べるには どうすればよいかがについて 考察している	行動の観察 ノートの分析	発表ビデオを見るなどして、 これまでの学習をふりかえり、 筋道を立てて意見を述べるには どうすればよいかがわかる。
17	10月13日(金) 3限				
＊「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。 ＊「知識・理解」は学習の過程において育成していく					

＊本時における指導と評価の計画

① 本時の目標

他者の発表を聞いて、構成や話し方を工夫する。

② 本時の評価規準

発表内容の構成や話し方を工夫している。

③ 本時の評価方法

行動の観察と、ノート記述の分析

④ 指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際 （方法・材料・着眼点等）
・前時の学習をふりかえる(20 分) 他班のメンバーの発表を聞いて、どういうところが工夫されていたのかという、「他者に対する評価」を、数名の生徒が発表する。	・発言者の評価を黒板を用いて整理することによって、「評価の観点」を共有させる。これによって、発表内容の構成や話し方を工夫する力を育てる。	・「評価の観点」をノートにメモすることができているかについて、観察する。
・先輩の発表ビデオを評価する(20 分) 2003 年度の 1 年生による同一課題での発表を評価基準表に基づいてノートに評価する。	・評価をノートに整理させることによって、発表内容の構成や話し方を工夫する力を育てる。	・先輩の発表への評価をノートにメモすることができているか、さらに、評価を、様々な観点に基づいてノートに整理することができているかについて、観察する。
・本時の学習をふりかえる(10 分) 本時の学習を通して、気づいたことを整理し、学んだことをノートに書く。	・「気づき」をうまく整理できない生徒には、他者に聞いたり、ノートを見せてもらいながら、ノートに学びを整理する。	・本時の学びをノートに整理することができているかについて、観察する。 ・ノート記述を「発表内容の構成や話し方を工夫する」という観点から、分析する ・Ｃと評価した生徒に対しては、他者のノート記述を参照させることによって、発表内容の構成や話し方の工夫に関する気づきを促す。

1 年 6 組　3 限(10:20 ～ 11:10)　　コンビニ商品配置計画の提案(全 5 時間)

学習目標・・・筋道を立てて意見を述べる

学習課題・・・ **若狭高校前にコンビニを出店させるとしたら、どのように商品を配置するかを提案する。**

学習者は、以下の設定の下、学習課題に取り組む

あなたは、**経営コンサルタント**です。

若狭高校の目の前にコンビニを出店したいという店主から**コンサルティング**を依頼されました。

若狭高校前店において、**どのように商品を配置したら、もっとも売り上げが上がるか、商品配置計画を提案**することがあなたの目的です。

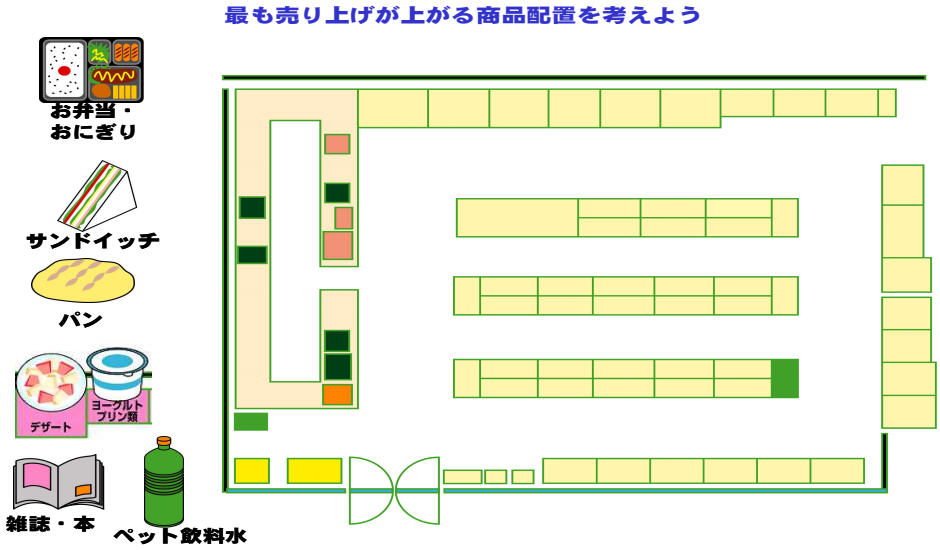
あなたは、以下に示す６つの人気商品を

１　**どのように配置するか**

２　**なぜそのような配置につながることが、売り上げの上昇につながるのか**

について、店主に納得いく提案を行わなければなりません。

提案は**教室**において、他の提案者のいる中で、**店主に口頭で**行います。**図や表**を提示することは可能です。店主に **3 分**で説明した後に、**２分**の質疑応答時間を設けます



＊**店主**は、それぞれの発表に対して「**説得力のある提案かどうか**」という観点から **50 点満点**で得点をつけます。

		5	4	3	2	1
ア	主張と根拠	主張を支えるための根拠が、**具体的な体験や様々な情報に基づいて、**多様な観点から示される。	主張を支えるための根拠が、**多様な観点から**示される。	主張を支える根拠が示される。	根拠は示されるが、示された根拠が主張を支えていない。	主張を支える根拠が全く示されない。
イ	構成と話し方	発表内容の構成や話し方を、工夫したことによる、**大きな成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫したことによる**成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫している。	発表内容の構成や話し方を工夫しようとしたことはわかる。	発表内容の構成や話し方を工夫したことがわからない。
ウ	質問への返答	聞き手の質問の意図に沿った返答を、**具体的かつ適切に**行う。	聞き手の**質問の意図に沿った**返答を適切に行う。	聞き手からの質問に返答する。	聞き手からの質問には、「はい、いいえ」「わかりません」などの基本的な返答しか返ってこない。	聞き手からの質問に対して、全く返答しない。

＊**渡辺**は、**上記の表に基づいて 30 点満点**にて評価を行います。

さらに毎時間行っている**ノートに対するふりかえりの記述を 20 点満点**で評価します。
これらを**すべて合わせて 100 点満点とし、単元全体の評価**とします。

＊本単元における指導と評価の計画

1年6組(普通科)　コンビニ商品配置計画の提案(全5時間)

実施日程		各時間の目標	「話す・聞く」能力の評価規準	評価方法	学習活動
1	9月29日(金) 3限	自分なりの根拠を挙げて商品配置計画を考える。	主張を支える根拠を示している。	行動の観察 ノートの分析	若狭高校前にコンビニを出店させるとしたら、どのように商品を配置するかを考える
2	10月2日(月) 3限	主張を支える根拠を多様な観点から考え、示す。	主張を支える根拠を多様な観点から考え、示している。		「商品配置計画」を自班のメンバーに発表し、お互いの主張と根拠を検討する。
3	10月3日(火) 2限	発表内容の構成や話し方を工夫する。	発表内容の構成や話し方を工夫している。		**「商品配置計画」を他班のメンバーに発表し、発表内容の構成や話し方を工夫する。(本時)**
4	10月4日(水) 2限	主張を支える根拠を多様な観点から考え、示す。	主張を支える根拠を多様な観点から考え、示している。		「商品配置計画」を自班で検討し、1つに統一する
5	10月5日(木) 3限	発表内容の構成や話し方を工夫する。	発表内容の構成や話し方を工夫している。	評価基準表による評価 ノートの分析	「商品配置計画」を他班に発表する。

＊「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。
＊「知識・理解」は学習の過程において育成していく

＊本時における指導と評価の計画

① 本時の目標

他者の発表を聞いて、構成や話し方を工夫する。

② 本時の評価規準

発表内容の構成や話し方を工夫している。

③ 本時の評価方法

行動の観察と、ノート記述の分析

④ 指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際 （方法・材料・着眼点等）
・代表生徒の発表を聞いて評価する。(20 分) 代表生徒の発表と指導者とのやりとりを評価する。	・自分のスピーチメモを、どう改善するべきかを意識しながら評価させる。これによって、発表内容の構成や話し方を工夫する力を育てる。	・発表者については、発表内容の構成や話し方を工夫して、提案することができているかを観察する。 ・評価者については、他者の工夫を評価できているかを観察する。
・自分の発表を再構成する(10 分) 自分の発表メモの構成を再度見直す。	・他者の工夫をもとに、自分の発表を再構成させる。これによって、発表内容の構成や話し方を工夫する力を育てる。	・他者の工夫を自分の発表メモに活かして再構成しているかを観察する。
・他班のメンバーとペアになって、発表しあう(10 分) 他班のメンバーとペアになり、お互いの発表を評価しあう。	・良かった点だけではなく、今後改善すべき点についてもお互いが評価しあうことができるようにする。これによって、発表内容の構成や話し方を工夫する力を育てる。	・他者に対して発表内容の構成や話し方を工夫して、提案することができているか、他者の工夫を評価することができているか、について観察する。
・本時の学習をふりかえる(10 分) 本時の学習を通して、気づいたことを整理し、本時において学んだことをノートに書く。	・本時における評価規準の観点を用いて、次回の発表においては、どんなことを気をつけなければならないか、その理由を含めて記述させる。これによって、発表内容の構成や話し方を工夫する力を育てる。	・本時の学びをノートに整理することができているかについて、観察する。 ・ノート記述を「発表内容の構成や話し方を工夫する」という観点から、分析する ・C と評価した生徒に対しては、他者のノート記述を参照させることによって、発表内容の構成や話し方の工夫に関する気づきを促す。

1年1組　4限(11:20 ～ 12:10)　理数科 CM 企画の提案(全１２時間)

学習目標・・・筋道を立てて意見を述べる

学習課題・・・　**若狭高校理数科を多くの生徒が受験したくなるような CM 企画を、校長先生に提案し、発表する。**

学習者は、以下の設定の下、学習課題に取り組む

あなたは、CM プランナーです。

若狭高校の校長から CM 企画の作成を依頼されました。校長は、今年度定員割れした理数科に、優秀な志願者を多く集めたいと考えています。

福井県下の中学生が、若狭高校理数科に入りたくなるような CM 企画を作成し、**提案**することがあなたの目的です。

あなたは、

１　どんな中学生を CM ターゲットとして選んだのか

２　なぜそのような CM 企画になったのか

について、校長の納得がいく提案を行わなければなりません。

提案は**教室**において、他の提案者のいる中で、**校長に口頭で**行います。**図や表**を提示することは可能です。

校長に**４分**で説明した後に、**２分**の質疑応答時間を設けます。

校長は、それぞれの発表に対して「**説得力のある提案かどうか**」という観点から **50 点満点**で得点をつけます。

渡辺は、**下記の表に基づいて 25 点満点**にて評価を行います。

		5	4	3	2	1
ア	主張と根拠	主張を支えるための根拠が、**具体的な体験や様々な情報に基づいて、**多様な観点から示される。	主張を支えるための根拠が、**多様な観点から**示される。	主張を支える根拠が示される。	根拠は示されるが、示された根拠が主張を支えていない。	主張を支える根拠が全く示されない。
イ	構成と話し方	発表内容の構成や話し方を、工夫したことによる、**大きな成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫したことによる**成果**がある。	発表内容の構成や話し方を工夫している。	発表内容の構成や話し方を工夫ようとしたことはわかる。	発表内容の構成や話し方を工夫したことがわからない。
ウ	チームワーク	チーム全体による入念な準備をのもと、熱心に取り組んだことを示す**大きな成果**がある。	チーム全体による入念な準備のもと、熱心に取り組んだことを示す**成果**がある。	チーム全体による準備のもと、取り組んでいる。	チーム全体で取り組もうとしたことはわかる。	チーム全体で取り組もうとしたことがわからない。
エ	補助資料	視覚的な補助資料を**効果的**に主張と関連させて用いながら発表する。	視覚的な補助資料を、**主張と関連**させて用いながら発表する。	視覚的な補助資料を用いながら発表する。	視覚的な補助資料を準備はしているが、それをほとんど用いない。	視覚的な補助資料は、特に準備していない
オ	質問への返答	聞き手の質問の意図に沿った返答を、**具体的かつ適切に**行う。	聞き手の**質問の意図に沿った**返答を適切に行う。	聞き手からの質問に返答する。	聞き手からの質問には、「はい、いいえ」「わかりません」などの基本的な返答しか返ってこない。	聞き手からの質問に対して、全く返答しない。

さらに、毎時間行っているノートに対するふりかえりの記述を **25 点満点**で評価します。

これらを**すべて合わせて 100 点満点とし、単元全体の評価**とします。

＊本単元における指導と評価の計画

1年1組(理数科） 理数科CM企画の提案(全12時間)					
実施日程		各時間の目標	「話す･聞く」能力の評価規準	評価方法	学習活動
1	9月25日（月）1限	主張を支える根拠について、受験生の心理・競合校・競合クラスなどの多様な観点から考え、示す。	主張を支える根拠を多様な観点から考え、示している。	行動の観察 ノートの分析	CMを見せたい対象を誰にするかについて検討する。
2	9月26日（火）1限				
3	9月28日（木）5限	主張を支える根拠について、受験生のイメージ・理数科のメリットなどの多様な観点から考え、示す。			CMを見せたい対象を絞り込んだ上で、その対象に対して、「どんなことを訴えるべきか」を検討する。
4	9月29日（金）3限	「誰を対象に、どんなことを訴えるCMを作るべきか」について、構成や話し方を工夫する。	発表内容の構成や話し方を工夫している。		「誰を対象に、どんなことを訴えるCMを作るべきか」について、構成や話し方を工夫する。
5	10月2日（月）1限	質問を予想し、それに対する返答を考える。			「誰を対象に、どんなことを訴えるCMを作るべきか」についての予想質問と、その返答を考える。
6	10月3日（火）4限	主張を支える根拠を示す 発表内容の構成や話し方を工夫する。	主張を支える根拠を示している。 発表内容の構成や話し方を工夫している。	行動の観察 評価基準表による評価 ノートの分析	**「誰を対象に、どんなことを訴えるCMを作るべきか」についての発表を行う。（本時）**
7	10月4日（水）6限	発表内容の構成や話し方を工夫する。	発表内容の構成や話し方を工夫している。	行動の観察 ノートの分析	他班からの評価をもとに、発表内容の構成や話し方を再検討する。
8	10月5日（木）5限	主張を支える根拠を、多様な観点から考え、示す。	主張を支える根拠を、多様な観点から考え、示している。		CM絵コンテを作成し、なぜそのようなCM絵コンテにしたのかという根拠を多様な観点から考え示す。
9	10月6日（金）7限	発表内容の構成や話し方を工夫する。	発表内容の構成や話し方を工夫している。		CM絵コンテの説明と、なぜそのようなCM絵コンテにしたのかという根拠についての、発表構成や話し方を工夫する。
10	10月10日（火）4限	話し方や構成を工夫して、発表する	主張を支える根拠を示している。 発表内容の構成や話し方を工夫している。	行動の観察 評価基準表による評価 ノートの分析	CM絵コンテの概要を説明した上で、なぜそのようなCM絵コンテにしたのかという根拠について発表する。
11	10月11日（水）6限				
12	10月12日（木）5限	筋道を立てて意見を述べるにはどうすればよいかについて考察する	筋道を立てて意見を述べるにはどうすればよいかについて考察している。	行動の観察 ノートの分析	発表ビデオを見るなどして、これまでの学習をふりかえり、筋道を立てて意見を述べるにはどうすれば良いかがわかる。
＊「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。 ＊「知識・理解」は学習の過程において育成していく					

＊本時における指導と評価の計画

① 本時の目標

1 主張を支える根拠を示す。

2 他者の発表を聞いて、構成や話し方を工夫する。

② 本時の評価規準

1 主張を支える根拠を示している。

2 他者の発表を聞いて、構成や話し方を工夫している。

③ 本時の評価方法

評価基準表による評価、行動の観察、ノート記述の分析

評価基準表を基にした他者評価の分析

④ 指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際 （方法・材料・着眼点等）
・他班のメンバーに、発表する(35 分) 他班のメンバーに発表し、評価しあう。	・良かった点だけではなく、今後改善すべき点についてもお互いが評価しあうことができるようにする。これによって、主張を支える根拠を示す力や、発表内容の構成や話し方を工夫する力を育てる。	・発表者が主張を支える根拠を示しながら、構成や話し方を工夫して提案することができているかについて観察する。 ・評価者が他者の工夫を評価することができているかについて観察する。
・代表者の発表を評価する(5 分)	・今回の依頼者である、校長からのコメントを聞き、今後の企画の参考にさせる。	・他者の発表を評価することができているかについて、観察する。 ・評価基準表に基づいて、発表を評価する
・本時の学習をふりかえる(10 分) 本時の学習を通して、気づいたことを整理し、本時において学んだことをノートに書く。	・本時における２つの評価規準の観点を用いて、次回の発表においては、どんなことを気をつけなければならないか、その理由を含めて記述させる。これによって、主張を支える根拠を示す力や、発表内容の構成や話し方を工夫する力を育てる。	・本時の学びを 2 つの観点からノートに整理することができているかについて観察する。 ・ノート記述を本時における２つの評価規準から分析する。 ・評価基準表に基づいた他者評価の記述を分析する。 ・Ｃと評価した生徒に対しては、他者のノート記述を参照させることによって、発表内容の構成や話し方の工夫に関する気づきを促す。

（7）　主な参考文献

キャロライン・V・ギッブス　鈴木秀幸訳　2001　『新しい評価を求めて』　論創社

高木展郎　2003　『ことばの学びと評価』　三省堂

田中孝一　西辻正副　2004 『評価規準が授業を変える!―高校国語の評価規準と実践例 』
明治書院

田中耕治　2005　『よく分かる教育評価』　ミネルヴァ書房

西岡加名恵　2005　「ウィギンズとマクタイによる『逆向き設計』論の意義と課題 」
カリキュラム研究第 14 号(2005)　日本カリキュラム学会紀要

西岡加名恵　2003　『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』図書文化

堀江　祐爾　2004「 高等学校における指導と評価の一体化の考え方」　『日本語学』
明治書院　2004 年 10 月号

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 FY プロジェクト　2006
『「読解力」とは何か』　三省堂

渡邉久暢　2004　「アントレプレナーシップを育てる国語科カリキュラム」
『研究雑誌』第 34 号　福井県立若狭高等学校

渡邉久暢　2006　「『言葉の学び』を自己評価する力を育てる高校国語科学習指導」
兵庫教育大学大学院　学位論文

（8）参考資料

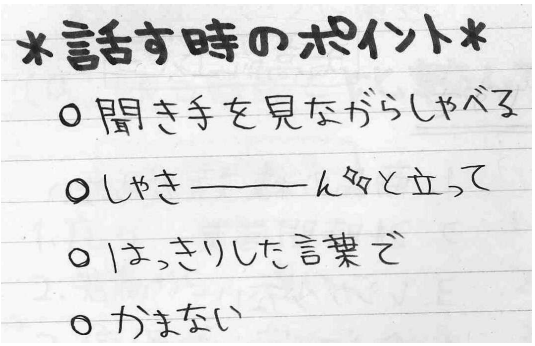
（参考資料）　若狭高校　第一学年　国語総合（現代文分野）　年間指導計画表

科目	単位数	指導学年	使用教科書
国語総合	6単位・210時間（実質180～190時間前後）	1学年	大修館書店『国語総合』
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	生徒の実態と指導の重点	高校卒業後は、大学または、短大に進む生徒が大半である。 高校での現代文や古典教材に親しむことをまず目標とし、受験にも対応できるような、3領域における基礎力を育成する。

月	単元名	主な単元の目標（評価規準）	教材	領域（時間） A（話すこと・聞くこと）	B（書くこと）	C（読むこと）	主な学習の目標（評価規準）	評価の観点 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	評価方法等
4	スピーチ	・目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする。〔学習指導要領A（話すこと・聞くこと）イ〕	・話題を選んでスピーチする	4			・目的や場に応じた話題を選んでスピーチをする。	○	◎	○		○	スピーチの観察、自己評価・相互評価
4	随想	・論理的な構成を工夫して，自分の考えを文章にまとめる〔学習指導要領C（書くこと）イ〕	・真実の鏡		6		・自分自身の体験を根拠として、筆者の主張に対する意見を書く。	○		◎		○	観察（発言・発表）、ノート、意見文（→定期テスト）
6	小説（一）	・ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと。〔学習指導要領C（読むこと）ウ〕	・羅生門			10	・登場人物の設定や、下人の心情の変化などを表現に即して読み味わう。	○			◎	○	観察（発言・発表）、ノート、感想文、レポート（→定期テスト）
9	評論（一）	・論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめる。〔学習指導要領B（書くこと）イ〕	・ヘンデルと力士		6		・論理的な構成を工夫して、「音楽」に対する自分の考えを文章にまとめる。	○		◎		○	観察（発言・発表）、ノート〕 意見文、レポート（定期テスト） 観察（態度）、自己評価・相互評価、作品、ポートフォリオ
9	企画の提案	・ア　様々な問題について自分の考えをもち，筋道を立てて意見を述べる。〔学習指導要領A（話すこと・聞くこと）ア〕 ・目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする。〔学習指導要領A（話すこと・聞くこと）イ〕	・自主教材	5～15			・発表内容の構成や話し方を工夫した上で、主張を支える根拠を示しながら企画を提案する。	○	◎			○	スピーチの観察、ノート、ポートフォリオ、自己評価・相互評価
11	日本語	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりする。〔学習指導要領C（読むこと）ア〕	・言葉についての新しい認識			6	・日本語の特性に対する筆者の主張を理解する	○			◎	○	観察（発言・発表）、ノート、（→定期テスト）
1	ディベート	・ 課題を解決したり考えを深めたりするために，相手の立場や考えを尊重して話し合う。〔学習指導要領A（話すこと・聞くこと）ウ	ディベートテキスト（生徒会発行）	6			・発表内容の構成や話し方を工夫した上で、主張を支える根拠を示しながらディベートを行う。	○	◎			○	観察（発言・発表・態度）、ノート・メモ 自己評価・相互評価
2	評論（三）	・論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめる。〔学習指導要領B（書くこと）イ〕	・「母性」と「父性」の間をゆれる		8		・筆者のものの見方や考え方に対する、自分なりの意見を、論理的な構成を工夫して書く。	○		◎		○	観察（発言・発表）、ノート、意見文（→定期テスト）

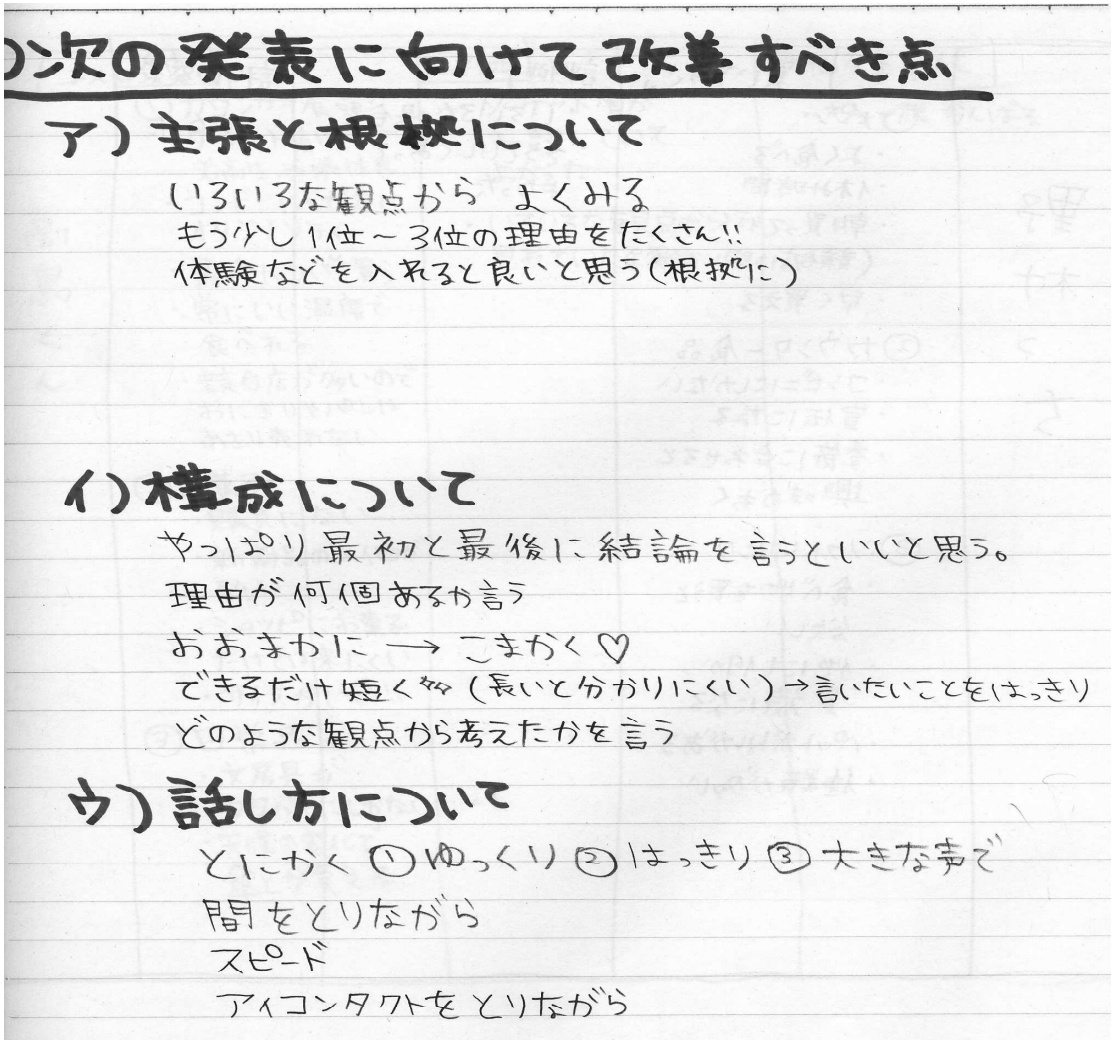
生徒の学習の実現状況と考察

授業後に、「学びの蓄積」である学習ノートの分析や学習行動の観察を通して学習過程の実現状況を調査した。


＊話す時のポイント＊
○聞き手を見ながらしゃべる
○しゃき――――んと立って
○はっきりした言葉で
○かまない

左に示したのは，学習者 A が**第一時**の学習後に記したノートの記述である。学習者 A は，自分が話す時に気をつけなければならない「話す時のポイント」として，「聞き手を見る」「しっかり立つ」「はっきりした言葉で」「かまない」などを挙げている。話す際の態度や話し方を良くすることが「話す時のポイント」だと，学習者Aが考えていることがわかる。

この後「筋道を立てて意見を述べる」という学習目標のもとに学習を展開した結果，この学習者 A は「筋道を立てて意見を述べる」ためにはどうすればよいかについても，詳しく記述することができるようになった。


次の発表に向けて改善すべき点
ア）主張と根拠について
いろいろな観点から よくみる
もう少し1位～3位の理由をたくさん!!
体験などを入れると良いと思う（根拠に）
イ）構成について
やっぱり最初と最後に結論を言うといいと思う。
理由が何個あるか言う
おおまかに → こまかく♡
できるだけ短くね（長いと分かりにくい）→言いたいことをはっきり
どのような観点から考えたかを言う
ウ）話し方について
とにかく ①ゆっくり ②はっきり ③大きな声で
間をとりながら
スピード
アイコンタクトをとりながら

次の発表に向けて自分たちの発表をどう改善すべきかを，評価基準表の観点を用いて書くことができていたのである。

例えば「ア　主張と根拠について」では，

・いろいろな観点から考察すること ・順位をつけた理由を詳しく述べること ・根拠を述べる際に具体的な体験を用いること

などを，改善すべき点として挙げている。

また，「イ　構成について」では，

・発表の最初と最後に，結論を言うこと ・結論が導かれた理由を，複数言うこと ・大まかに全体の内容を述べた後に，細かい内容の説明を行うこと ・主張を簡潔に，はっきりと述べること ・どのような観点から考えたのかを述べること

などを挙げている。

単元の学習開始時には，「聞き手を見る」「はっきりした言葉で」など，話す際の「態度」や「話し方」の工夫に対して関心が向いていた学習者 A であるが，学習を展開するにつれて話す内容や構成面についても，数多くの工夫を生み出すことができた。「筋道を立てて意見を述べる」という評価規準を満たしたと言えよう。

ここでは学習者 A を典型的な例として取り上げたが，今回の学習においては，全ての学習者の学びの足跡が様々な形でノートに蓄積されている。それぞれの学習者が豊かな学びを行ったことを，全員のノートから確認できた。学習過程については，「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「知識・理解」いずれの項目においても，全員が規準を満たしたと言える。

また，評価基準表を用いて評価した提案発表のパフォーマンスについても，

筋道を立てて意見を述べるために，

①主張を支える根拠を示している。

②発表内容の構成や話し方を工夫している

という評価規準を全員が満たした。これも，学習過程において豊かな学びを行うことができた成果によるものだと考える。

評価方法に関する成果と課題

提案発表のパフォーマンスについては，評価基準表を用いて評価を行った。
今回用いた評価規準は

筋道を立てて意見を述べるために， ①主張を支える根拠を示している。 ②発表内容の構成や話し方を工夫している。である。

この評価規準は，思考力・判断力・表現力などを総合的に含むものである。そのため，スタンダード準拠評価を用いることが妥当であると考え，先に示した評価基準表を用いて評価した。

評価基準表の作成においては，課題や生徒の実態にあわせること，全体として同じ観点に焦点を当てること，尺度の点数間にある質的な変化の程度を等しくすることなど，留意すべき点が多い。そのため，評価基準表の作成には膨大な時間がかかり，困難を窮めた。

今後は評価基準表の作成を簡略化する方法を検討したい。作成に手間がかかりすぎるようだと，日々の授業では使用できないからである。

例えば，評価基準表の記述語における抽象的な部分については汎用的に扱えるものを作成した上で，個々の課題や生徒の実態に応じて具体的な作品例を添付する，といった方法が考えられる。様々な工夫を行うことによって評価基準表作りを簡略化する方法についても，次年度は検討したい。

提案発表のパフォーマンスについては，授業者の評価だけではなく，マーケティングの授業を担当する商業科教員にも評価に参加してもらった。さらに，学級内他者による評価，自己評価の結果も検討した上で，総合的に評価規準を達成できたかどうかについて，授業者が評価した。

このように，評価対象者のパフォーマンスに対して複数の視点から評価を行うことによって，授業者だけによる評価の主観性を乗り越え，多様かつ多面的な評価を行うことができる。評価基準表を用いてパフォーマンスを評価する際には，複眼的な評価を行うことが望ましいと言えよう。